

LPに感嘆し

〜6〜

親切なエルモア中尉のおもてなしのおかげで、僕は初めてLPなるものを耳にできたが、演奏のすばらしさはもちろん、あまりの音の良さにただただ顔を見合わせて「すっこいなあ」と感嘆するばかりだった。

その夜からしばらくして、すっかり仲良しになった店員さんが相談を持ちかけてきた。「僕たちだけ楽しんでほしいなあ、申し訳ないみたいだ。あの機械借りちゃって、みんなに聴かせるってのどう？」
「えっ？ どうやって？」
僕は大学二年生だし、彼なんぞはもっと若い。こわいもの知らずだったんだ。
「どこのレコード会社を共賛して新譜紹介ってのをくつついたらやれるかもしれないなあ」「どうせならレコードコンサートのための同好会をつくって会員募集しちゃうおっか。そっだ、もっともら

しい名前考えてよ」「でも、ちよっと待ってよ。解説する人どうするの？」「君大学生だろ。適当にしゃべっておくれよ」
「何日かたった。」「ナゴヤ・ホット・クラブ、っていうのどう？」「よくわからない



昭和27年ごろの名古屋・栄交差点付近。右端あたりに名古屋舞踏会館があった

LPに感嘆し コンサートを

けど、いい感じだね。それに決めようや」。夫を言うと、あとでこの名前が問題になったんだけれど――。
曰「ころはあまり顔を出したくないお店の主人も姿がきのおヤジさん、自分のテリ探してあげようか」。やがて

得意げに「舞踏会館に話を付けてきたよ」「えー？ それ何ですか」「君たち知らないの？ ダンスホールだよ。広いから、ちよっどいと思うよ」。なーんだ。ダンス好きのオヤジさん、自分のテリで決めちゃったんだ。
始まった。一九五二年冬の出来事だった。
「此度(このたび)名古屋地方に於(お)きましてナゴヤホットクラブを結成いたす事になりました。就きましては第一回ジャズレコードコンサートを左記の如く開催いたしますから奮って御参加下さいませ様にお願いたします」。これがちらしの書き出しだ。今読むとどこか古めかしいが、それに続いて、時：二月十六日(土)午後十二時半―三時。会場：名古屋舞踏会館(市電栄町下車すぐ東)。入場無料。とある。

そう言えば、当時は社交ダンスが結構盛んで「赤玉会館」とか「浪越会館」なんていうのがあったわけ。「折りたたみのいすを三十も用意すればいいんだろ。まあ私にまかせときなご」
そして末尾がものものしも出来上がる。粗末な紙だが、ちゃんと印刷で見出しもついていた。「第二回ジャズレコードコンサート開催お知らせ」と。
「こまできたらもう後には引けないよ。手分けて、手当たりしだいに張っちまおう。こうして中年一人と吾者二人のコンビで無鉄砲な旅が

そう言えば、当時は社交ダンスが結構盛んで「赤玉会館」とか「浪越会館」なんていうのがあったわけ。「折りたたみのいすを三十も用意すればいいんだろ。まあ私にまかせときなご」
そして末尾がものものしも出来上がる。粗末な紙だが、ちゃんと印刷で見出しもついていた。「第二回ジャズレコードコンサート開催お知らせ」と。
「こまできたらもう後には引けないよ。手分けて、手当たりしだいに張っちまおう。こうして中年一人と吾者二人のコンビで無鉄砲な旅が

(内田 修)